編集後記

アカデミック・ジャパニーズ・グループは、幹事の世代交代をはかるべく、若手幹事を補充し、あわせてAJジャーナル第3号の編集委員・アドバイザーもそれらの幹事によって充実・強化された。また、今号は、2月5日のAJG研究会例会での研究発表のフィードバックを踏まえた論考も数多く投稿され、「アカデミック・ジャパニーズ」という教育研究領域における「協働」が緒につきつつあることを実感できた。そして12本の論考の内4本では、教育現場においてさまざまな形の「協働」学習が探られている。

３．１１の東日本大震災は、日本語教育のあり方に対しても大きな課題を突きつけたように思える。その一つは、在住外国人の多くが、とるものもとりあえずの体で帰国ないし避難した事実をどう見るかという点である。日本の報道がパニックを引き起こすことを恐れて抑え気味だったのに対して、海外での報道が過度にセンセーショナルだったせいもあろう。しかし、一つの観点として、留学生を含めた在住外国人が日本語での必要情報を的確に得られていないことも、こうした現象の背景としてあったのではないか。

アカデミック・ジャパニーズは、単に大学で学ぶためだけでなく、この社会でより良く生きるために寄与する日本語力を養うことをも目的としている。大震災と原発事故という生死や健康にかかわる状況を、それぞれの学習者の日本語力レベルにおいて的確に把握し対処しうるための日本語教育はいかなるものかが、アカデミック・ジャパニーズ教育者に問われている。　（編集委員長　M.K.記）

刊行：2011年6月

編集委員（＊は委員長）・アドバイザー
石毛順子（国際教養大学）・大島弥生（東京海洋大学）・影山陽子（日本女子体育大学）・
＊門倉正美（横浜国立大学）・木下謙朗（朝日大学）・佐藤勢紀子（東北大学）・
佐藤正則（アークアカデミー）・嶋田和子（イーストウエスト日本語学校）・
高橋薫（東京大学）・二通信子（東京大学）・堀井惠子（武蔵野大学）

アドバイザー協力者
阿部新（名古屋外国語大学）・池田隆介（北九州市立大学）・
武一美（早稲田大学）・村上康代（早稲田大学）・茂住和代（東京情報大学）